

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」
まちだ納税貯蓄組合連合会優秀賞

『「税金ドロボー」がいない世界』 町田市立小山田中学校 3学年 今井 真妃子

私の父は海上保安官です。海上保安官、公務員のお給料は、国民の皆さんが支払っている税金から賄われています。これを聞くと極一部の人は、

「公務員は税金ドロボー」「税金で食ってる癖に」

という心無い言葉を投げつけられ、目の敵にされることがあります。何とも悲しいですが、これは事実です。もちろん公務員は海上保安官だけではありません。警察官、消防士、そして私達中学生にとって最も近い存在である、教員の方、今挙げた以外にも沢山の職業の方が「公務員」として日本のために、そして国民である私達のために、毎日腰を上げて働いてくれています。

とはいえ、公務員の仕事は、事務、そしてデスクワークが中心であるために、あまり関わらない人からすれば、出出しにあった通り、勘違いされてしまうのも、仕方が無いことなのかもしれません。

ですが、考えてみて下さい。私達の町には当然のように消防車や交番があります。そして何時に通報したとしても、彼らは私達のところへ駆けつけてくれます。私の父、海上保安官もそうです。

私の父は、海上保安庁、と聞いて大抵出てくる、「海猿」ではありません。表舞台に立つことも少ないです。ですが、近くで大きな地震があれば、深夜だろうがすぐに会社へ向かいます。そこから次の日まで帰って来ることでできないときもあります。直接救助に行く訳ではありません。一部始終を書いて記事にする訳でもありません。でも、彼らがいなければ、きっと日本は成り立っていないでしょう。これは全ての公務員の方に言えることです。たとえ人から賞賛されなくとも、私達の生活を平和に維持してくれているのはまぎれもなく公務員の方々です。

公務員ではない方々からしたら、公務員、という仕事を持ち上げている様に見えるかもしれません。それは違います。でも、彼らの働き、仕事の大変さについて、知ってほしい、と思います。

税金の使い道、そして公務員という仕事のこと、これらがいつか、誰もが知っている常識となるように。まずは私が税について知り、周りに広げていけるようになります。

そしていつの日か、

「税金ドロボー」

ではなく、

「税金ヒーロー」

達が溢れる世界を私は造っていききたいです。